オンライン朝会「思いを届ける日」2 / 10

おはようございます。今日は、この写真を見てください。ベビーカーを押してエレベータに乗ろうとしています。でも満員で乗れません。この時、ベビーカーのお父さんやお母さん、エレベータの人は、どう思ったのでしょうか？ 想像してみてください。そして、隣の人と話してみましよう。

（1分後）さあ、どうでしょう。ベビーカーの親は「どうして降りないの？」と怒ったり、「ゆずってくれないかな」と悲しんでいるかも知れません。エレベータの人は「混んでるのに乗るの？」とあきれて怒ったり、「あっ、どうしようヤダな」と迷ったりしているかも知れませんね。何だか刺々しくて、ぎくしゃくしている雰囲気です。

こんな場面の時、みなさんは、どう考えますか？

校長先生は、「自分にとってどうか」ということよりも、「相手にとってどうか」と考えることが大切だと思います。エレベータの中の人たちは、ベビーカーの親子を見て「困ってるだろうな」と思うことができたなら…、ベビーカーの親は「エレベータの人たちも、きっと急いでるだろうな」と思うことができたなら…、お互いに相手を思うことができたなら、きっといい雰囲気になるだろうなと思います。

それを「思いやり」といいます。

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」。被災地の報道の合間にテレビで流れ、有名になった詩があります。

「こころ」は誰にも見えないけれど 「こころづかい」は見える 「思い」は見えないけれど 「思いやり」は誰にでも見える
--

さて、今週は、「ふじみ祭り」がありますね。自分が楽しむことよりも、来てくれる「相手に楽しんでもらうこと！」それが**思いやり**です。むずかしい言葉で言うと「相手意識」です。ふじみ祭りは、みなさんの「**思いを届ける日**」です。最後に、去年の「ふじみ祭り」の写真です。まさに、みなさんの「相手を思いやる心」がにじみ出ています。

今年も思いやりいっぱい、大成功するよう応援しています。